

で現今は大阪市北新町二丁目に住して製造販賣して居る由であるが。價格は炬燵一圓より一圓四十錢足温一圓二十錢より一圓七十錢、藥劑は一貫目三十錢位で二度に遣へるををだ(一度は二ヶ月乃至四月間有効)尙發明人の云ふ所に依ると此藥劑八貫目を三時間用ゆると一石五斗の水を華氏百二十度に暖めることが出来ると云ふことだから學校でも家庭でも之を水槽やばけつ手桶などの底に引き出しを作りでもして應用したらば至極妙ではないかと思ふ。要するに一寸買つて来て直ぐ役に立つて成程至極結構と云ふ譯には行かない様だが應用の仕方次第で可なりに使へる様である。



ホーヘンリンデンの會戰 (翻譯)

筆

日はリンデンの野に落  
 イーゼル川の黒き瀬は  
 戦鼓夜半にひやく時  
 静かなりけるリンデンの  
 合圖につれてつはものは  
 馬はいくさをいそぎつゝ  
 雷霆山を震動し  
 雷霆ますゝ急にして  
 血はリンデンの野を染む  
 流れも早きイーゼルの  
 戦雲空をおほひつゝ  
 フランク人とフン人は  
 進めますらをもろ共に  
 ミューニヒ人よ勇ましく  
 戦すぎてものゝふの  
 雪はかばねの衣かも

積雪未だ血に染ます  
 冬の空にも通ふらん  
 砲火闇をば照す時  
 姿はもとのものならず  
 共に刃を抜きはなち  
 聲勇しく嘶きぬ  
 軍馬陣地に突入す  
 紅火しきりに閃きぬ  
 戦 今やたけなはに  
 川浪いよゝ黒みゆく  
 朝日の影も力なく  
 烟の中に切りむすぶ  
 死ぬべき時は今なるぞ  
 敵の陣地をいざや突け  
 生きて還るはなかりけり  
 芝生とはの墓場かも